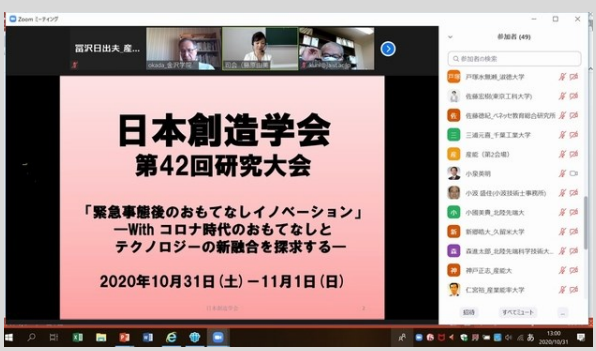
JAPAN CREATIVITY SOCIETY
日本創造学会
JCS NEWSLETTER

第42回日本創造学会研究大会報告

-初めてのオンライン全国大会を終えて-

日本創造学会第42回研究大会は、2020年10月31日（土）～11月1日（日）の2日間、オンラインで開催されました。実行委員会のオペレーションルームは産業能率大学自由が丘キャンパスに設置されました。研究発表は初のZoomによる分散型発表会で、初のデジタルポスター発表のセッションも設けました。オンラインという時間の制約の中、初めて懇親会を実施しない全国大会でもありました。コロナ禍の社会を反映するように準備段階ではこれまでに経験のない混沌の中、手探りの「感覚判断」の連続でした。しかし結果として約60件の発表申し込みがあり（内20件はデジタルポスター発表）、講演会、パネルディスカッションの活況、6会場分散運営での司会者（ホスト）の見事なコントールなど大成功とは言えなくとも、次につながる良い大会になったと思います。良かった点としては、事前準備において①運営側の定期的オンラインミーティングの実施、②パネラー事前打ち合わせ（リハーサル）、③臨機応変な道具決め（運用マニュアル作成、Zoom活用、オンデマンド講演、６ID分散など）があげられます。

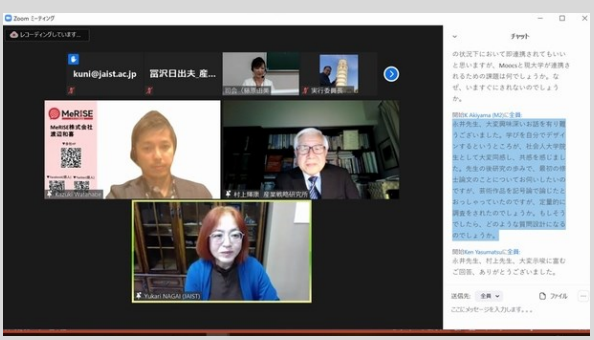
大会初日において、日立製作所名誉フェローの小泉英明先生の講演「非連続の連続～新しいイノベーションエコシステムに求められるもの～」は深い内容で素晴らしい講演でした。



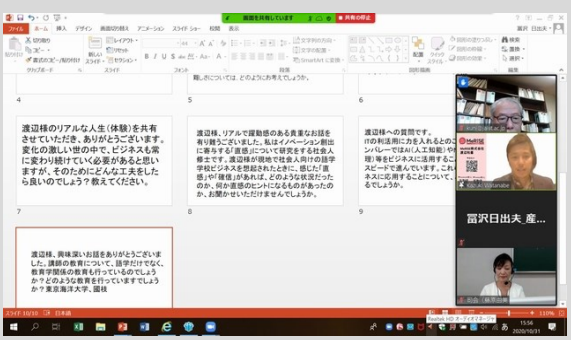
大会テーマ画面

基調講演の小泉英明氏

パネルディスカッション（村上輝康先生・渡辺和喜氏・永井由佳里先生）では、それぞれの得意な領域が生きて大変面白く、藤原先生の司会がプロ級だったこともあり、聴衆がインタラクティブに参加できた企画でおおいに盛り上がりました。（2頁に続く）



パネルディスカッションのパネリストの皆さん



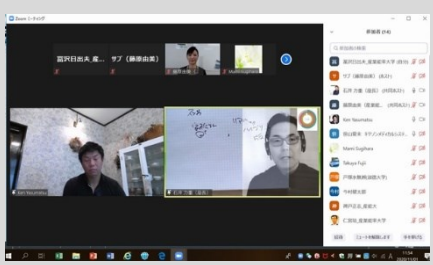
参加者の質問を画面でインタラクティブに共有

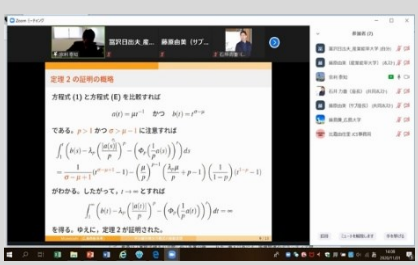
日本創造学会フェローに就任された紺野登先生のオンデマンド講演会

講演会は1日目の総会報告時に会員に向けてのメッセージとしてオンデマンドで行われました。

２日目は、会員による発表会が行われました。オンラインでの開催になったことで、参加希望者が拠点から移動せずに発表ができたこと、デジタルポスター発表枠を設けたことで学生の参加が増えたこと、マニュアルと司会者の的確な指示で大きな操作の混乱はなかったこと、ハイパーリンクの一覧でグループセッションを苦労なく移動できたこと、各ホスト/サブホストの先生方の進行・アドバイスが的確で素晴らしかったことなどがありましたが、これらは事務局比嘉さんの八面六臂の活躍なしに実現はできなかったと思います。心より感謝します。

（大会実行委員長：豊田貞光）





Zoomによるオンライン発表会の様子

学会賞授賞者

本年度学会賞表彰式は大会がオンライン開催のため、永井理事長より表彰者を発表、表彰状と記念品は郵送で送られました。。

【日本創造学会論文賞Vol.23 】

小國美貴、神田陽治（北陸先端科学技術大学院大学）

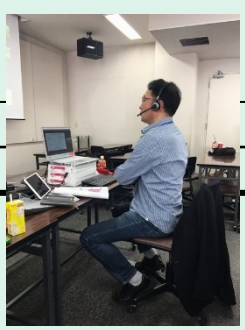
【第41回研究大会発表賞】

森進太郎（北陸先端科学技術大学院大学）
中田泰子（北陸先端科学技術大学院大学）

【第41回研究大会発表学生賞】

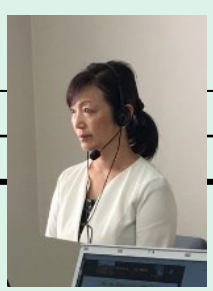
井上勇一（就実大学）
高野あゆみ（北陸先端科学技術大学院大学）

●●●実行委員会と産能大ボランティアの先生方によるオペレーションルーム●●●



挨拶をする
豊田実行委員長

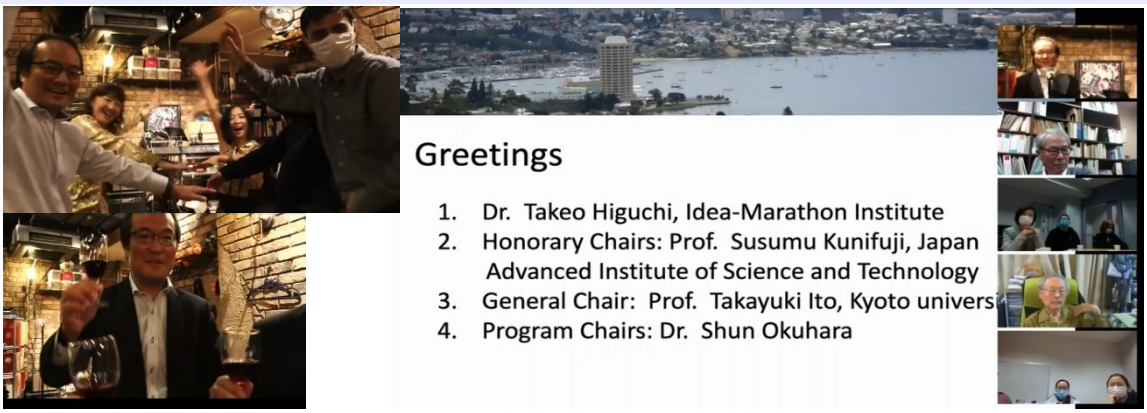
Zoom Mtgのオペレーション打合せ



プロ級の司会進行
藤原副実行委員長

KICSS2020報告

15th INTERNATIONAL CONFERENCE on Knowledge, Information and Creativity Support Systems



国際会議KICSS2020(日本創造学会共催)はオーストラリアのタスマニア大学で11月25-27日に開催される予定であったが、コロナ騒ぎで京大伊藤孝行教授、名工大奥原俊助教グループの全面協力を受け、11月25-26日にオンライン開催となった。國藤進が名誉議長、永井由佳里（理事長）がプログラム委員会コアメンバーの関係で、多数の日本創造学会の正会員・学生会員が参加発表した。参加者は47名、参加国は7ヶ国（日本、タイ、オーストラリア、アメリカ、中国、インド、アフガニスタン、エジプト）であった。

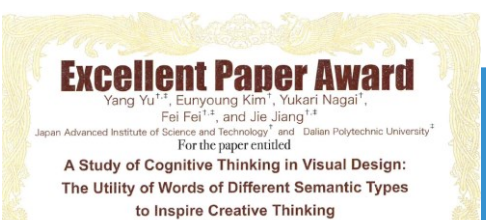
発表件数はロングが15本、ショートが12本の27論文である。キーノートスピーカはタイNECTECのSanparith Marukatat博士、タスマニア大学Quan Bai教授、京都大学伊藤孝行教授、カルフォルニア大学アーバイン校Kwei-Jay Lin教授であった。

日本創造学会は正会員・学生会員として16名（國藤進、永井由佳里、羽山徹底、キムウニュン、樋口健夫、三枝省三、井上勇一、三浦元喜、由井薗隆也、岡田政則、江野泰子、木村正子、Yu Yang、Jing Zhao、Ming Yi、角田勝、崔秀徳）が参加・発表した。

今回苦労したのはタスマニアらしさを出すことである。オンラインのバンケットでタスマニアワインでの乾杯をし、ハニーポップという名古屋のプロ集団の音楽ショー、有志によるオンラインカラオケを楽しんだ。

なお三枝省三・樋口健夫らがOutstanding Paper Award、Yu Yang・キムウニョン・永井由佳里らがExcellent Paper Award、羽山徹彩らがKunifuji Awardを受賞した。今回の特色はAIが意見を取りまとめてくれるインターネット上のテキストベース議論システムD-agreeの採用である、D-agreeで参加した人からBest Discussantの一位、二位、三位を自動採点した。二位に木村正子、三位にJing Zhaoが選ばれている。主題に関するLikeでカウントするBest Presentation AwardはJing Zhaoが受賞した。また國藤進が今大会の企画・実行に対する貢献でOutstanding Contribution Awardを受賞した。

来年度KICSS2021はタイのバンコクで11月17-19日に開催される。ホテルでの開催・宿泊が予定されているが、ハイブリッド開催の可能性もある。今年と同様に、D-agreeが援用される予定である。また再来年度はアフターコロナ時代となるので、再度タスマニア大学にトライしたい。正会員・学生会員の方は今から準備し、奮って参加・発表されたい。　　（副評議員長：國藤進）



2019-20年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第8回日本創造学会著作賞は2019-2020年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は5月15日までの予定です。エントリーフォームはこのニューズレター送付時に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。
（著作は希望者には１冊返却しますが、エントリー時にその旨を申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので、新品同様での返却はできません。）
詳しくは下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「著作賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ニューズレターで公知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
2. 単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容量を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
3. 著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
4. 年度ごとの同一著者によるエントリーは1件までとする。
5. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。
6. 会費完納の会員であること。

[応募手続き]

Ⅰ．自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作の概要をA4版2枚以内（3千字以内）にまとめたもの3部（著作のオリジナルな点を明記する）を提出する。
3. 審査用に著作を3冊日本創造学会に寄贈する。
   ※応募書類・著作・資料の返還は行わない。（著作返還希望者はエントリー時に申し出る）

Ⅱ．他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは学会賞委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作の概要を書き3部を提出する。
3. 学会への納本については、最低1冊は寄贈し、残り2冊については著者より借りる（寄贈でも良い）。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。
5. 学生会員も推薦対象になる。
   ※応募書類・資料の返還は行わない。貸与された著作は著者に返還される。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか（下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する）。
   ・他者の研究に引用されている。・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
   ・新聞・雑誌等の書評で紹介されている。・海外で翻訳されている。
   ・インターネット等で言及がある。
7. 応募著作により、学術部門と啓蒙部門に分けて選考することができる。
8. 著作賞の質を守るために、「該当なし」の結論になることもある。

▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼ 総会報告 ▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼

新型コロナウイルスの影響で研究大会がオンライン開催になったため、大会と同時に開催している会員総会についても書面（メール）による総会となりました。

2020年10月に会員の皆様の登録メールアドレスに総会資料を送付、記載内容（2019年決算・事業報告、2020年度事業活動状況、2021年活動予定、2021年予算案等の項目）をご確認いただき、メールへの返信にて内容の承認について確認致しました。理事会より提案・報告された内容は、会員の賛成多数で承認・可決しました。

2019年度決算報告

収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	4,003,692	4,003,692	
会費収入	1,793,500	2,016,000	正会員支払者175名　1,746,000 学生・Jr.会員支払者50名　204,000 入会金51名　66,000 ※新入会者会費は入会時期により変動
その他収入	120,000	136,000	論文掲載料正会員 30000×2名　60,000 論文掲載料学生会員 20000×2名　40,000 その他販売等雑収入36,000
合計	**5,917,192**	**6,155,692**	

支出

科目	予算額	実績額	備考
大会費	500,000	299,991	200,009
会議費	90,000	52,727	37,273
研究会補助費	400,000	286,902	113,098
交通費	130,000	127,370	2,630
発送費	80,000	28,531	51,469
学会誌	50,000	25,216	24,784
ニューズレター・メディア	250,000	249,800	200
事務局費	350,000	348,540	1,460
名簿規約管理費	200,000	192,000	8,000
HP管理費	110,000	101,000	9,000
事務所設備費	120,000	120,000	0
学会賞準備費	30,000	12,779	17,221
電話使用料	30,000	14,216	15,784
予備費	1,704,226	94,612	1,609,614
支出合計	**4,044,226**	**1,953,684**	

	収入額	支出額	繰越額
収支	**6,155,692**	**1,953,684**	**4,202,008**

2021年度予算

収　入		支　出		2020年度予算
2020年度繰越分（監査未終了概算）	¥4,431,960	大会費	¥500,000	¥500,000
		会議費	¥90,000	¥90,000
会費収入　（会員数からの概算）		研究会補助費	¥400,000	¥400,000
内訳		交通費	¥150,000	¥130,000
正会員200人×10000円×75%	¥1,500,000	発送費	¥80,000	¥80,000
学生会員68人×5000円×65%	¥221,000	学会誌	¥50,000	¥50,000
		NL・メディア作成費	¥250,000	¥250,000
		事務局費	¥350,000	¥350,000
新入会者入会金約20名分 （2000×10、1000×15）	¥35,000	名簿・デジタルデータ類管理費 （規約、名簿、会費会計簿、ITｱﾄﾞﾚｽ等管理）	¥200,000	¥200,000
		ホームページ管理費	¥111,000	¥110,000
論文掲載料	¥110,000	事務所設備費 （光熱費、OA機器保守費、事務所使用費　等）	¥120,000	¥120,000
雑収入	¥10,000	学会賞準備費	¥30,000	¥30,000
		電話使用料	¥35,000	¥30,000
		予備費	¥3,941,960	¥3,641,192
	¥6,307,960		¥6,307,960	¥5,981,192

※予算収入欄の2020年度からの繰越額は年度途中のため概算です。（2020年見込繰越額参照）

2021年度会費収入については2020年現時点での会員数に基づいた概算です

2021年度論文掲載料・雑収入については2020年度実績に基づいた概算です。

新入会員紹介

入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
岡本　廉	学生会員	高知大学大学院	高知県	デザイン思考 クリエイティブ・ラーニング・スパイラル
惠美須丈史	正会員	ゑびす中小企業診断士事務所	栃木県	事業構想 経営革新
池田大輔	学生会員	早稲田大学大学院	神奈川県	イノベーション システム・デザイン

■会員の著作紹介■

使えるアイデアがあふれ出るすごいブレスト

著者：石井力重（日本創造学会会員、アイデアプラント）
出版社：フォレスト出版　189頁　価格：1500円+（税）
発刊日：2020年12月

A.オズボーンの文献や他の研究者の考えをもとに「ブレストのルールの根底にあるもの」（4章）や「大量案の質的な構造」（5章）、「オンラインのブレスト方法」（2章、3章）を著しました。また、ブレストの特性時間（3秒、20秒、8分…）など、経験から割り出した「ブレストにおいて特徴的な時間尺」（6章）、「ブレストの幅をもたらす脱線」の舵取り、「沈黙と休憩のテクニック」にも言及しました。
本書は、本学会の先生方に頂いてきた沢山の恩を、広く社会に向けて返していきたいと思い、全力で書きました。次の世代を担う学生・企業人が、創造的な発展の軌道を力強く駆け上がっていく際に、本書がその一助になれば幸甚です。

●会員の著作紹介について●

JCS Newsletterで会員の皆様の著作（発行後1年以内）を紹介致します。
但し、学会機関紙で紹介できる内容のものに限ります。
記事掲載をご希望の方は、著作紹介文（200-300字程度）著者名、出版社名、頁数、価格、著作の画像を事務局までメールでお送り下さい。

事務局メッセージ

第42回研究大会は10月31日～11月1日の2日間、オンラインで開催されました。コロナ禍の中、全てが初めて、手探りでの準備でしたが、移動せずに参加できるなど、オンライン開催の利点もあり、60件の発表があり盛況となりました。この経験やノウハウを活かし、来年度の大会も会員の皆さまが参加しやすい全国大会にできたらと思います。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2020年12月発行（4№）
日本創造学会事務局
発行人 ：永井由佳里
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市平田
1－10－2
Tel 080－3465－6152
Fax 047－718－1747
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp